

進路だより

地上の星

豊能町立東能勢中学校

創刊号 2010年4月16日

君のかけがえのない未来のために

成長は、クラスの仲間とともに



義務教育最後の年である中学3年生になりました。多くの先生方が、「2年生のときは随分変わった。学習に取り組む姿勢が前向きで、やる気が伝わってくる。」とって感心し、喜んでます。4～5月には、クラブの試合、大型連休、修学旅行と、随分慌ただしい日々が続きますが、学年目標「笑顔で過ごせる毎日」となるように、お互いが助け合い、認め合い、高め合っていけるクラスにしていきたいと思います。授業はもちろん、何ごとにも前向きにとり組めるクラスの中でこそ、君たち1人ひとりの成長もあります。

「すばらしいクラスだった。ほんとうに楽しかった。」と思える一年間にしていきたいと思います。

地上の星



1 風の中のおばる

砂の中の銀河

みんな何処へ行った 見守られることもなく

草原のペガサス

街角のビーナス

みんな何処へ行った 見守られることもなく

地上にある星を誰も覚えていない

人は空から見てる

つめよ高 空から教えてよ 地上の星を

つめよ地上の星は今何処にあるのだろう

2 崖上のジュピター

水底のシリウス

みんな何処へ行った 見守られることもなく

名立たるものを追って輝くものを追って

人は水から擲る

つめよ高 空から教えてよ 地上の星を

つめよ地上の星は今何処にあるのだろう

3 名立たるものを追って輝くものを追って

人は水から擲る

風の中のおばる

砂の中の銀河

みんな何処へ行った 見守られることもなく

つめよ高 空から教えてよ 地上の星を

つめよ地上の星は今何処にあるのだろう



七年ほど前に、NHKの「プロジェクトX」という番組の主題歌として流れた、中島みゆきの「地上の星」です。中島みゆきは、僕の大好きなシンガーです。そこで、進路だよりの名前としました。

風の中や砂の中でもその輝きを失わなかったスバルや銀河、草原を駆け抜けたペガサス、美しかった街角のビーナス、そして、人々の視線の届かない崖の上や水底でも自分色を放っていたジュピターやシリウス。そんな地上で光り輝いていた星たちは、いま、どこでどうしているのだろうか。人々は、そんな地上の星たちに目を向けることもせず、天空高く輝く星ばかりを見ている。名を馳せたものばかりを追い続けている。それは、つかめばすぐ融けてしまう氷のようなものでしかないのに。高い空を飛び交うつばめたちよ、人知れず光り輝いていた本当の星たちのことを教えてよ。と、歌っています。(ちょっと、勝手な解釈ですが。)

君たちの近くにも、ひょっとしたらすぐ横にも、美しく光り輝いている星があるかもしれません。明るい星には、そんな星の姿は見えません。それでも、その星は輝き続けているのです。夜空に煌々(こうこう)と誇らしげに輝く星も確かに美しく、人の心を癒(いや)してくれるけれど、人々に眺められることなく、自分の色で輝き続けている地上の星たちは、もっと美しいものです。この一年、一人ひとりが自分色に輝く星になれるよう、がんばりましょう。

進路を切り拓くのは、君自身なのだ!



「進路」とは、自分が進むべき道、自分の夢や希望を実現させるために進まねばなら

夢や希望を、夢や希望のままに終わらせないためには、どうしたらいいのでしょうか。

この時期に、しっかり考え、悩み、迷ってほしいものです。そうして悩み迷ったことは、自分を理解する、自分を見つめる大切な力となります。「どんな仕事に就きたいのか。」

「どんな大人になりたいのか。」「高校に行って、何を学びたいのか。」などは、今、考えなければいけないことです。「そのうちに」とか「また今度」というわけにはいきません。このことをおろそかにしておくと、自分の進路なのに自分で決められず、当然切り拓くこともできないまま、後悔することになります。今を自分がどう過ごすかが、1年後の自分に、いや将来の自分に返ってきます。君たちの未来はかけがえのないものです。心のどこかにひそんでいる弱い自分、なまけようとする自分、逃げようとする自分に、打ち勝ちましょう。先生の中でも、親の中でもありません。君たち一人ひとりの自分の進路です。

大いに悩み、自分で納得のいく進路を自分で決められるように、自分をしっかり見つめていってください。

夢を持って、それを実現するために、努力する姿は美しい。